



折原 理恵(おりはらりえ)

平成30年7月豪雨災害をきっかけに災害支援の炊き出しから活動が始まり、災害時にこそ平時の地域コミュニティが大切だと感じ、行政、社協各種NPOや市民の方々と協力し、市内各地で子ども食堂や多世代で楽しめるイベントなど企画運営している。昨年生まれた初孫が唯一の癒しの存在。家庭内でもグラママとして奮闘中



中田 幸(なかださち)

西日本豪雨災害をきっかけに、癒しボランティアを始める。看護師として産前産後のお母さんに関わりながら、お母さんが笑顔になる、地域で子育てしていく社会を目指しています。また、大切な命を守るために、普段から、人と人の繋がりを大切にし、フェーズフリーな防災を伝えていきたいと活動しています。



本多 彩恵(ほんださえ)

女性防災リーダー育成プログラムがきっかけで、防災の大切さ、平時からの取り組みの大切さを強く感じるようになりました。行政や市民の方々と協力体制を作りながら、また、私自身としては、防災士も取得し、さらに防災意識と知識を深めていきたいと思っています。



二宮 亜未(にのみやあみ)

令和5年4月から宇和島市危機管理課に所属し、避難対策に関する業務を担当。多様な主体との連携を目指すべく、女性防災リーダー育成プログラムに参加。フェーズフリーの視点を日々、勉強中。



松崎 貴志(まつざきたかし)

防災士/NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ

茨城県つくば市出身。消防団をはじめ、青年会長と地域活動を行いながら体験格差を減らすべく、各地で出前講座などを行う。防災については、ドローンを活用した「視覚を変えた防災」に取り組む一方、ゲーミフィケーションを活用したSDGs授業なども行っている。むすびえには2023年3月に参画し、本業とのダブルワークで「一人でも多くの子ども達へ将来の選択肢を増やす」をテーマに今後も活動を継続していく。